

第 22 代高校生平和大使 スイス訪問 活動日誌

① 国際赤十字委員会訪問

ジュネーブにある ICRC(国際赤十字委員会)を初めて訪問した。ICRC は 1863 年に戦地における傷病兵、捕虜の保護を目的にアンリ・デュナンらによって創設され、現在世界中の貧困、災害、紛争地域で活動している。高校生平和大使としては初めての訪問で、広島・長崎の 2 人の大使がスピーチし、ICRC 武器ユニット対策顧問と意見交換を行った



② UNI グローバルユニオン訪問

ジュネーブの隣のリヨン市にある労働組合の世界組織 UNI グローバルユニオンは、2010 年の長崎での総会開催で訪問が始まり、今年で 11 回目となる。初めての訪問で緊張する平和大使たちをいつも温かく迎えてくれる。10 人の大使がスピーチし、14 か国の皆さんと交流することができた。

③ YWCA 訪問

世界 YWCA は第 3 回平和大使以来、毎年訪問している。9 か国、12 人のスタッフが出迎えてくれた。



④ 軍縮会議日本政府代表部訪問

1 時間を超える表敬訪問で、高見澤軍縮大使と核兵器禁止条約をはじめとする軍縮会議の動きについて議論を行った。意見交換では、核兵器禁止条約、若い世代のとりくみ、安全保障、被爆者、原発事故の影響などについて意見を交わした。



⑤ 軍縮会議日本政府代表部主催レセプション

ロシア、フランスなどの核保有国を含め約 30 か国 40 名の大使や外交官職員、その他関係者が参加した。代表で広島と長崎の平和大使が、被爆三世として祖父の被爆体験を通して核兵器の廃絶を訴えるスピーチを行った。その後、

高校生平和大使は外交官の皆さんと交流した。核保有国と非保有国との違いや高校生平和大使や高校生 1



万人署名活動への励まし、賛同の意見も寄せられ活動の重要性をあらためて認識した。

⑥ 軍縮会議傍聴

会議の冒頭に議長から高校生平和大使が紹介され、また議題の中で高校生平和大使が話題にあがった。とりくみの重要性と責任を新たにしました。



⑦ 軍縮局訪問（署名提出とスピーチ）

軍縮会議傍聴したのち国連内見学。午後から軍縮部を訪問し、高校生平和大使 23 人が平和な世界の実現についてのスピーチと 215,547 筆の署名・目録を提出した。

23 人の平和大使は、日本各地の自分たちの地域の問題と平和に対する考え方や思いを持って参加した。長崎・広島からは「あの日の惨劇」を伝え、福島・岩手は震災を通しての経験、原発事故についても訴えた。23 人全員の思いを一つのものとし、核兵器の悲惨さを声にし、核兵器廃絶への大きなメッセージを伝えた。意見交換の中で、カスペルセン氏は「互いに相手を認め合い、家族のようにみれる平和な世界。誰にも脅されず、怯えることのない平和な世界。そんな世界に核兵器はいらない」と語り、若者が活動することが平和な世界を実現すると確信できた。1 時間の訪問期間だったが、カスペルセン氏が高校生平和大使の活動を高く評価し、今後の活動に期待を込めた発言は、平和大使にとって意義深い時間だった。



⑧ トローゲン州立学校での交流

トローゲン州立高校の英語科の学生と対話を中心とした交流をすることができた。



⑨ ハイデンでの長崎の鐘の式典

ハイデンで国際赤十字創始者アンリ・デュナンは晩年をすごした。長崎を中心に平和のスピーチを行った。長崎大学より、長崎の鐘のレプリカが贈られ博物館の庭に設置されて大切に守られている。8月9日など特別の時にしか鳴らさないという長崎の鐘を、全員で鳴らした。



ランチでは国際赤十字の関係者や IPPNW(核戦争防止国際医師会議)のメンバーと核兵器の廃絶などについて意見交流した。

8月24日、長崎で、全員で帰国報告会ののち、解散し、長い平和大使の旅を終えた。